

令和2年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和 2年 10月 15日

校番	10	学校名	広島県立尾道北高等学校	校長氏名	藤本 秀穂	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	本校
----	----	-----	-------------	------	-------	-------------------------------------------	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A (75%) B (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す方向が、明確である。 ・チューター制は、ユニークな取組みである。 ・尾北の地域社会における期待に応えるものになっており、社会のグローバル化への対応を学校として目指したものになっている。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A (25%) B (75%)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に今年度は、進捗が遅いので(コロナのため)評価も難しい。 ・コロナ禍の状況の中で、計画どおり進行しなかった状況なので評価しがたい。しかしその様な状況の中で、努力されていることは評価したい。
目標達成に向けた取組の適切さ	A (50%) B (50%)	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい環境の中で、とてもよくがんばって取り組んでいることが分かった。体育祭のドローン、PRにかつようしてもよいのでは。 ・上記のような状況なので、コメントは難しいが、組織的継続的な取組みをして頂いている。
評価結果の分析の適切さ	A (25%) B (75%)	<ul style="list-style-type: none"> ・「問う力」等、とても大切と考える。教育、指導面でアンケート以外に評価する方法は他にないだろうか。 ・教科ごとの分析は不明であるが、ご報告の各分掌における取組みとその自己分析評価は、ほぼ適切であると思料します。 ・学力向上のための対策についてもう少し詳細に知りたかった。
今後の改善方策の適切さ	A (50%) B (50%)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な形に今後なっていくことを期待する。 ・コロナ禍での新校長のもとでの尾北教育のスタートで大変だと思いますが、「尾北の学び」を継承し、発展させて頂いていると思料します。
総合評価	A (50%) B (50%)	<ul style="list-style-type: none"> ・今、どこの学校もともしんどい思いを教師も子供も感じています。一緒に頑張りましょう。 ・チューター制の導入など活用され、「新たな尾北教育」の推進に努力されていることを評価するとともに、成果を期待しております。 ・中学校の卒業生が皆表情良く勉学に励んでいた。この表情が貴校の取組みのすばらしさを物語っていると思料します。